

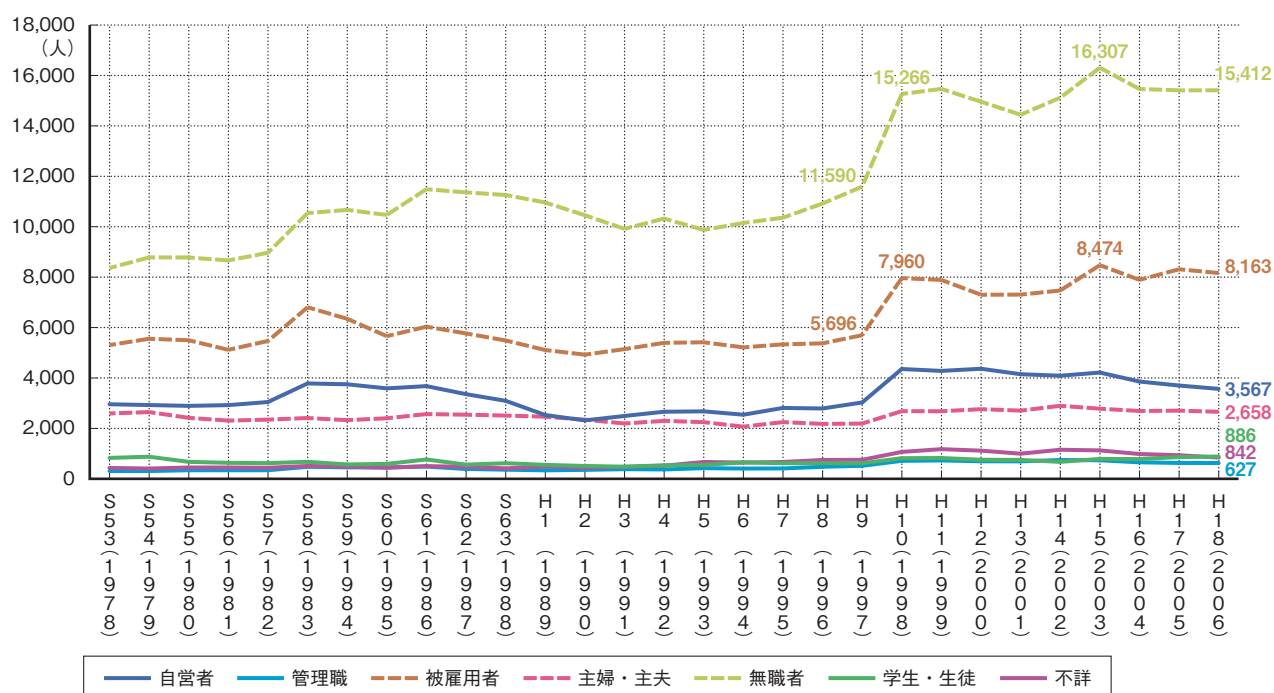
7 職業別の自殺の状況

職業別の自殺の状況については、自殺統計では平成19年の統計から自殺統計原票の改正により職業の分類が改められたことから、平成18年までとの単純比較はできない。

平成18年までの職業別の自殺者数の推移に

ついて自殺統計によれば（第1-17図）、自殺者の約半数を「無職者」が占め、次いで「被雇用者」、「自営者」、「主婦・主夫」、「学生・生徒」、「管理職」の順となる傾向が続いている。

第1-17図 平成18年までの職業別の自殺者数の推移



注意：「主婦・主夫」については、平成11年までは主婦（女性）のみを計上している。

資料：警察庁「自殺統計」より内閣府作成

平成22年の状況をみると（第1-18表）、「無職者」が1万8,673人（58.9%）と自殺者数の半数以上を占め、次いで「被雇用者・勤め人」8,568人（27.0%）、「自営業・家族従事者」2,738

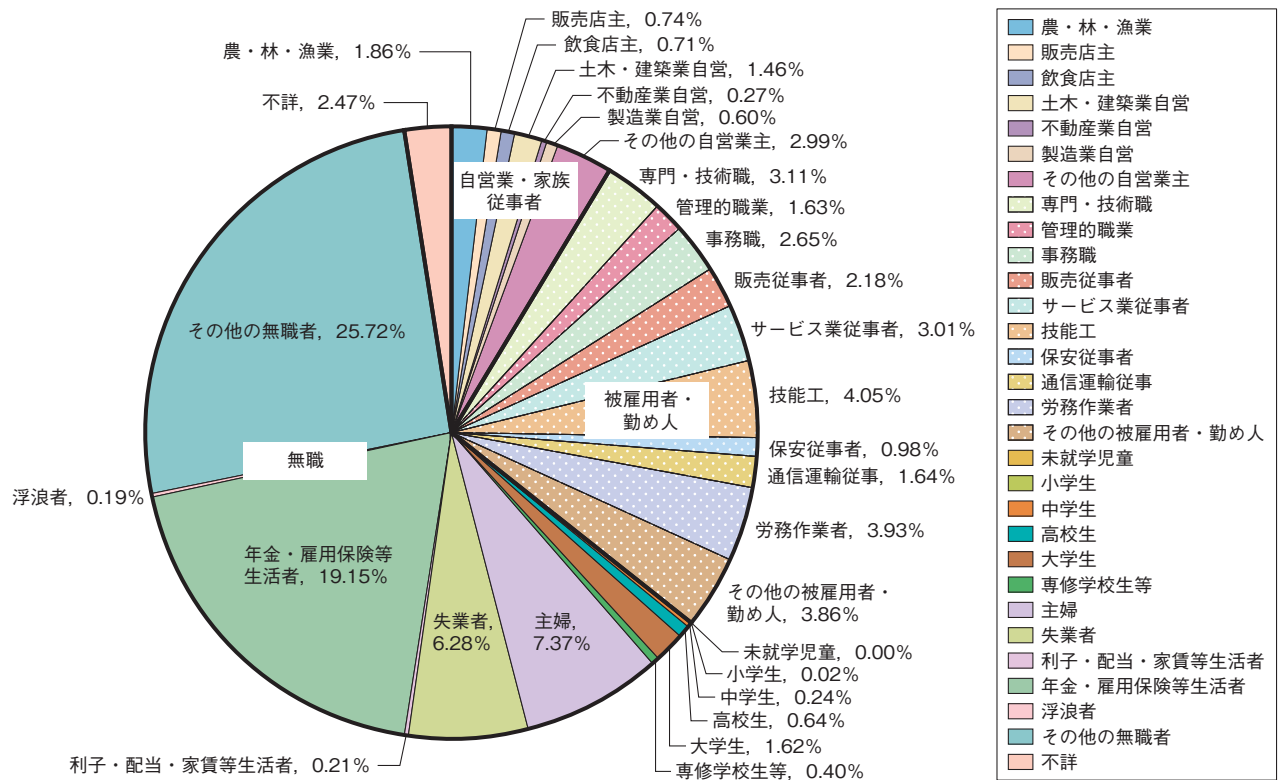
人（8.6%）、「学生・生徒等」928人（2.9%）の順となっている。なお、職業別の詳細は第1-19図のとおりとなっている。

第1-18表 平成22年における職業別の自殺者数

	自営業・ 家族従事者	被雇用者・ 勤め人	無職		不詳	総数
			学生・生徒等	無職者		
計	2,738	8,568	928	18,673	783	31,690
構成比	8.6%	27.0%	2.9%	58.9%	2.5%	100.0%
男	2,451	7,237	663	11,247	685	22,283
女	287	1,331	265	7,426	98	9,407

資料：警察庁「自殺統計」より内閣府作成

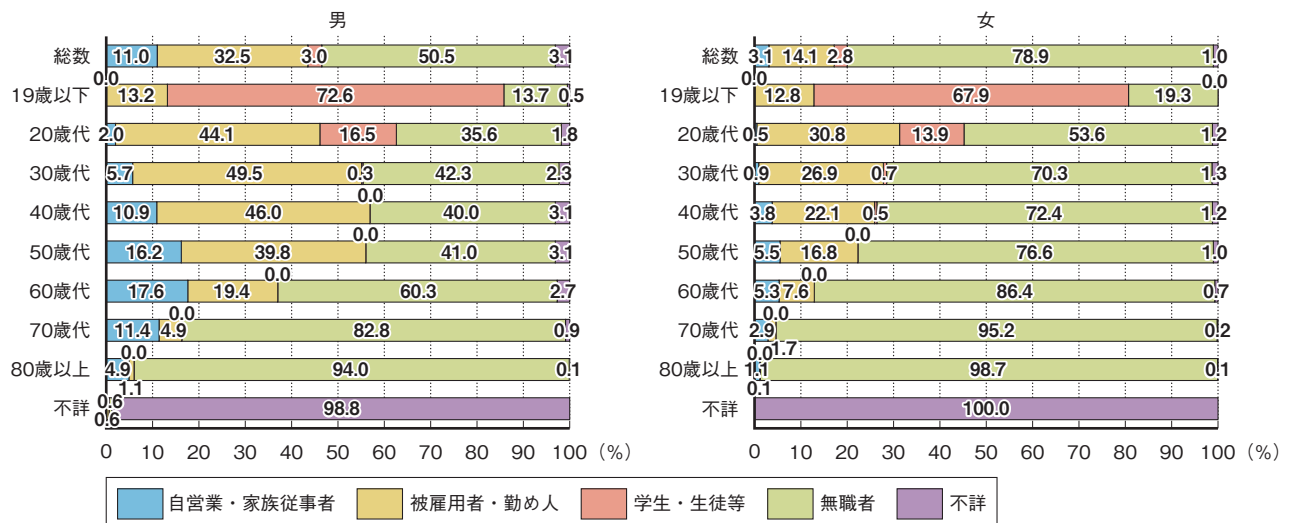
第1-19図 平成22年における職業別自殺者数の構成割合



次に、男女別・年齢階級別・職業別の状況をみると(第1-20図)、19歳以下については、男女とも「学生・生徒等」が最も多く、男性では72.6%、女性では67.9%を占めている。男性については、20歳代～40歳代までは「被

雇用者・勤め人」が最も多く、30歳代、40歳代では、約半数が「被雇用者・勤め人」となっている。女性については、20歳代以上は「無職者」が最も多く、各年代の半数以上を占めている。

第1-20図 平成22年における男女別・年齢階級別(10歳階級)・職業別の自殺者数の構成割合

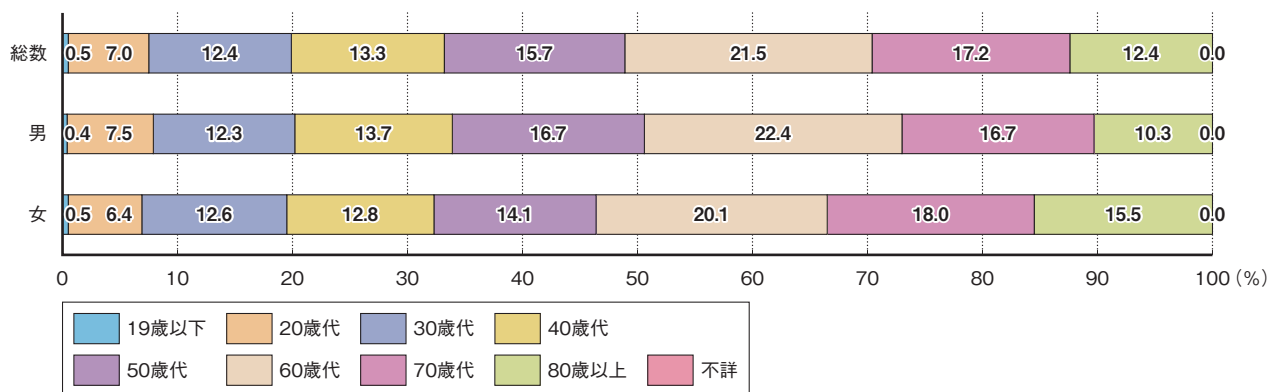


「無職者」の自殺者数の年齢階級別構成割合をみると（第1-21図）、男女とも「60歳代」が最も多くなっている。また、年齢が高いほど、無職者の割合が高い傾向がある（第1-20図）。さらに、「失業者」については、平成22年においては1,990人となっており、前年

の2,341人に比べ351人（15.0%）減少している。

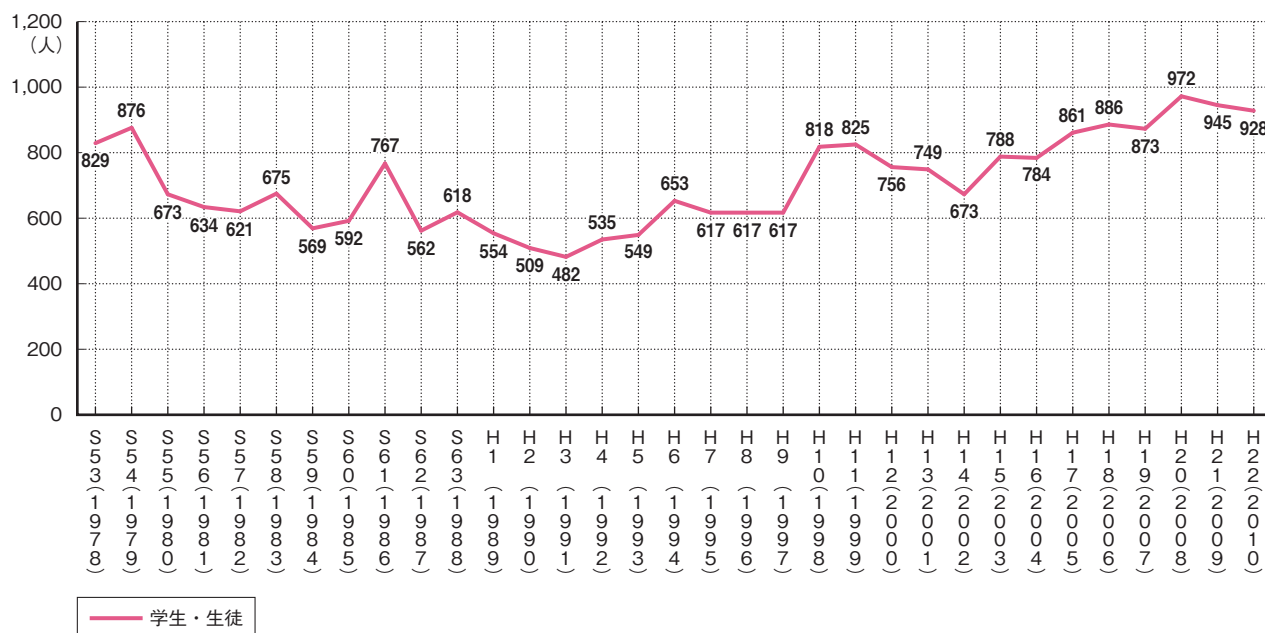
なお、学生・生徒の自殺者数について、自殺統計によれば、平成15年以降、増加傾向にあるが、平成22年においては、前年に比べ17人（1.8%）減少している（第1-22図）。

第1-21図 平成22年における無職者の自殺者数の年齢階級別構成割合



資料：警察庁「自殺統計」より内閣府作成

第1-22図 学生・生徒の自殺者数の推移



資料：警察庁「自殺統計」より内閣府作成